

平成30年度 鳥栖市購買動向調査報告

(市内短期大学・専門学校生を対象)

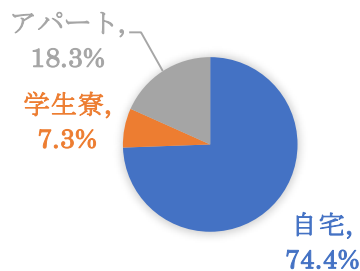
調査の概要

1. 調査内容 飲食店・理美容室およびネットショッピング利用調査
2. 調査期間 平成30年11月1日～11月30日
3. 調査対象 鳥栖市内短大、専門学校に通学する学生
4. 調査方法 専用アンケート用紙による自記式調査
5. 調査目的 飲食店・理美容室の利用動向・消費者心理動向を把握する
6. 調査項目 飲食店・理美容室の利用検索方法、店舗所在地、選ぶポイント、利用頻度、1回あたり支出額・ネットショッピング、最近利用したサイト、購入した商品、1か月平均利用額
7. 学生数1,060人に対して、936人回収（回収率88.3%）

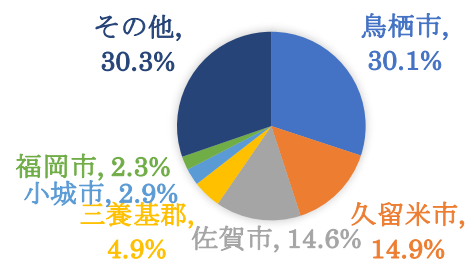
【アンケート回答者】

今回は、鳥栖市の短期大学と専門学校の協力により、在学生の購買行動や消費額等を知ることが出来た。また、調査対象の学生の内74.4%は自宅から通学していたことから、学校を出た後の行動傾向を知ることが出来た。自宅は市外でも学校に通学する期間は、鳥栖市内でのサービス消費が増えると思える。

居住形態（通学）



住所



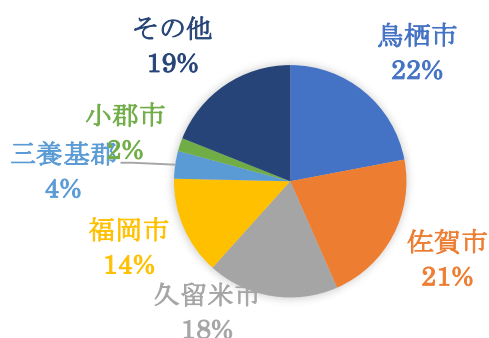
【理美容・飲食店のよく行くお店の所在地】

理美容では鳥栖市が22.0%に対して、佐賀市が21.4%、久留米市が18.3%である。飲食店では、鳥栖市が27.9%に対して、佐賀市21.7%、久留米市が23.8%になっている。

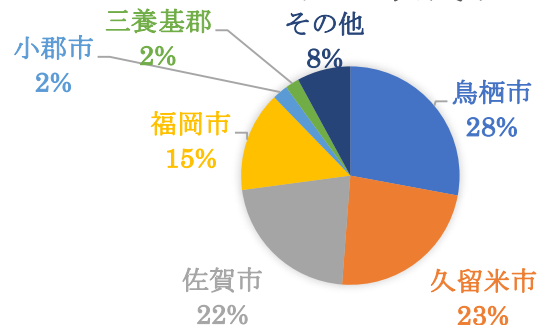
また、福岡市が理美容で13.7%、飲食店が14.8%と福岡市からの通学者が2.4%と少ない割には利用する店が多い。

このことから地域的な優位性を発揮できているとは言えない状況である。

よく行く理美容室の場所

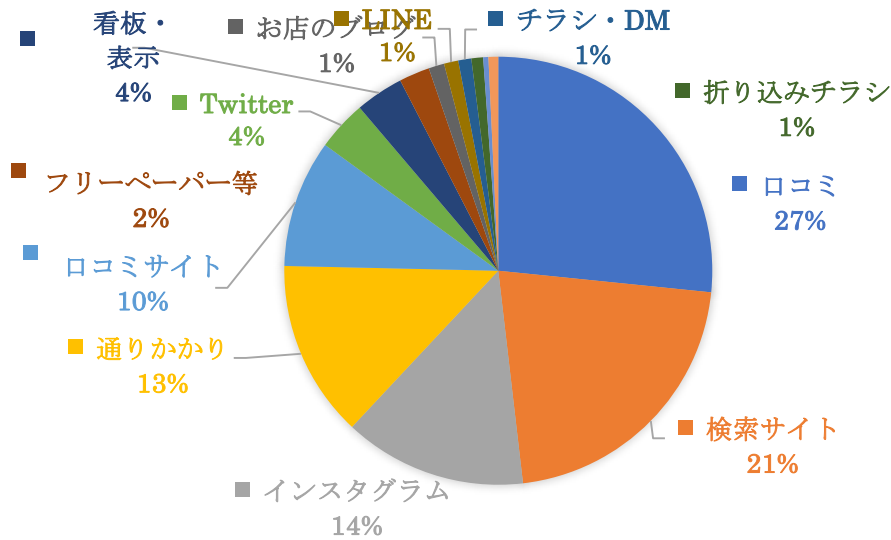


よく行く飲食店の場所



【理美容・飲食店の検索方法】

検索方法は、インターネットや SNS 等を合わせて 51%となっている。都会的な流行店やインスタ映えする店が相対的に多いことが若者を引き付ける原因と考えられる。このことから、「若者をターゲット」に事業を行う場合は、SNS 等を活用してお店の発信力を高める店づくりが求められていることを示唆している。



【まとめ】

鳥栖市では小売業が減少し、サービス業の開業が増えている。その中でも理美容関連は特に開業が多く、業種もネイルサロン、まつげエクステ、メイクなど多様化している。一方で開業時の計画が不十分な場合や、安易に借入れを行って事業継続が厳しくなり廃業をする事業者も多い。

今回の調査はその理美容店とともに増加している飲食店の利用についても調べており、ニーズや動向調査を行ったことで今後経営支援を行う上で参考にしてゆきたい。

以上